

経営比較分析表（平成29年度決算）

大分県 豊後大野市

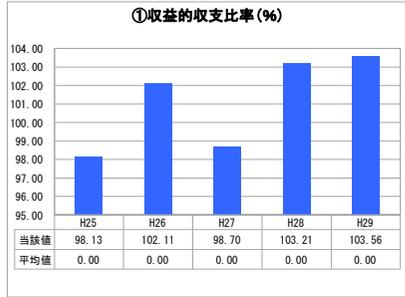
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	4.28	100.00	4,330

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
36,824	603.14	61.05
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,561	18.09	86.29

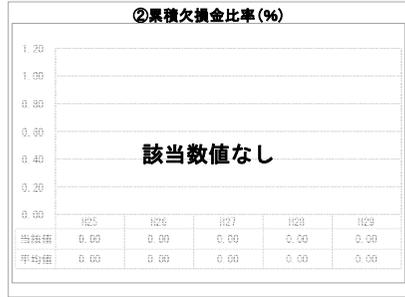
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 平成29年度全国平均

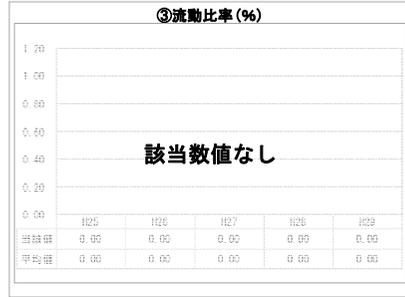
1. 経営の健全性・効率性



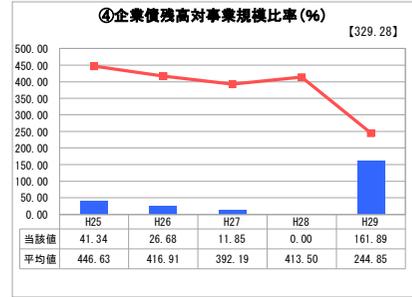
「単年度の収支」



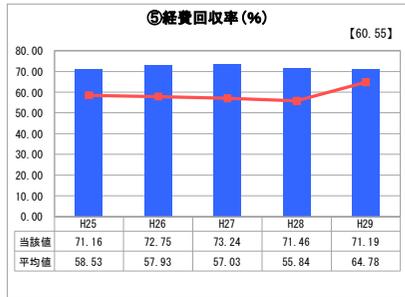
「累積欠損」



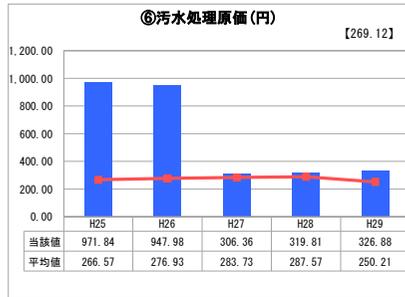
「支払能力」



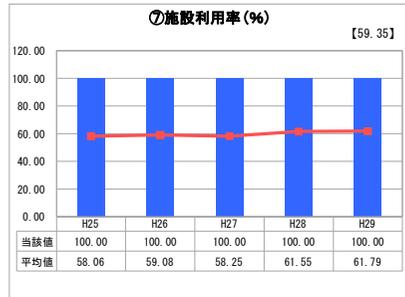
「債務残高」



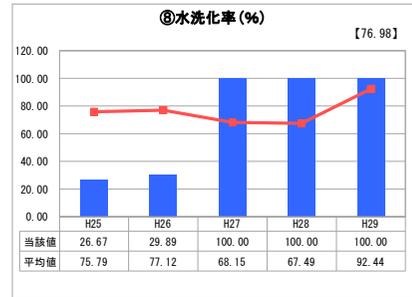
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

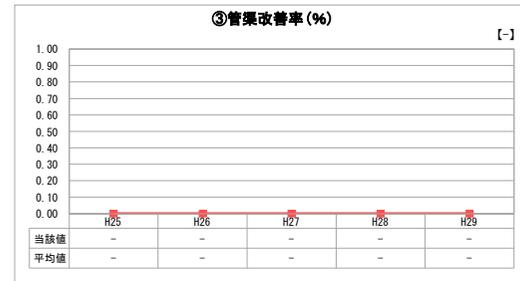
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 『収益的収支比率』・・・総費用に地方債償還金を加えた費用を総収益でどの程度賄われているかを示す指標。100%に近い数値を維持しており良好ではありますが、今後とも経費削減に努める必要があります。
- 『企業債残高対事業規模比率』・・・料金収入に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標。地方債償還のピークを越えたことがわかるが、類似団体と比較しても著しく低いことから、企業債残高に対する一般会計の負担すべき金額が比較的大きいことも窺える。
- 『経費回収率』・・・使用料で回収すべき経費を、どの程度使用料で賄えているかを表した指標。全国平均・類似団体平均を上回っているが、必要な経費を料金収入で賄えおらず、今後とも更なる費用削減に努めていく必要があります。
- 『汚水処理原価』・・・有収水量1m³あたりについて汚水処理に係るコストを表した指標。全国平均・類似団体平均と近い数値であり、良好な状態といえます。
- 『施設利用率』・・・処理能力に対する汚水処理量の割合で、施設の利用状況を判断する指標。高い水準で推移しており、良好な状態といえます。
- 『水洗化率』・・・実際に水洗便所を設置して汚水処理している人口の割合を表した指標。高い水準で推移しており、良好な状態といえます。

2. 老朽化の状況について

- 『管渠改善率』・・・当該年度に更新した管渠延長の割合を表す指標。維持管理者による定期的な管理により、管渠改善率は0%である。

全体総括

今のところ類似団体と比較して平均的な経営ができている。今後も定期的な維持管理を行い、効率的な経営に努める。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。